経済指標ウォッチャー

6月米国CPI 伸び率が加速し、大幅利上げ実施との見方が強まる

1981年11月以来約40年半ぶりに前年同月比9％を超える上昇

消費者物価指数（CPI）とは？

CPIとは消費者が実際に購入する段階の、輸送・食品・医療などの消費財やサービスの価格（物価）の変動を表す指数。CPIの項目、構成比、算出方法には国ごとに違いがある。米国では労働省が毎月中旬ごろに公表する。物価変動の基調をみるために価格変動の大きい項目を除いたコアCPIが重視されることが多い。米国ではCPIからエネルギーと食品を除いて、コアCPIが算出される。（参考：日本ではCPIから食品を除いてコアCPIが算出される）

CPIは前年同月比9.1％上昇

13日に米労働省が発表した6月のCPIは前年同月比+9.1％(市場予想：同＋8.8％)と、5月の同+8.6％からさらに上昇し、1981年11月以来、40年7カ月ぶりの高い伸び率となりました。足元の物価動向を反映する傾向があると言われる前月比も＋1.3%と5月の同+1.0%から上昇しています。変動の大きいエネルギーと食品を除いたコアCPIは前年同月比+5.9%と前月の同+6.0%から伸び率が低下したものの、市場予想の同＋5.7%を上回りました(図表1)。

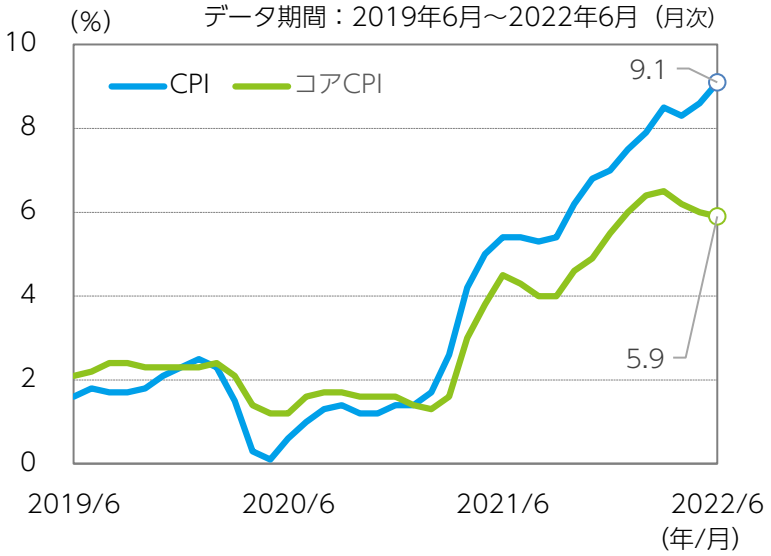
ウクライナ危機の長期化や行楽シーズンによるガソリンの需要増等を受けてエネルギー価格が高騰していることに加え、住宅価格高騰を受けて住宅購入を見送った人々の賃貸住宅に対する需要増から家賃が大幅に上昇していることも要因となりました。

7月のFOMCで1.0%利上げとの見方が強まる

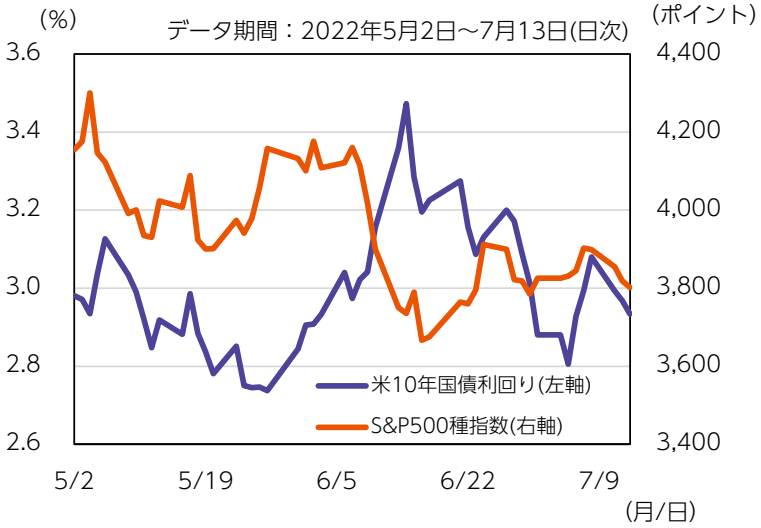
6月CPIは前月から伸び率がさらに上昇したことから、FRB(米連邦準備制度理事会)の利上げペース加速により、景気が減速するとの懸念が強まり、株価は下落、米10年国債利回りは低下(価格は上昇)しました(図表2)。今回の結果を受けてFRBが7月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で1.0%の大幅な利上げを実施するとの見通しが強まっていますが、1.0%の利上げは行き過ぎているとの見方もあります。市場では9月以降も継続的に利上げが実施され、2022年末の政策金利は3.50%～3.75%になるとの見通しが優勢となっています。

米民間調査機関のコンファレンスボードが6月28日発表した6月の米消費者信頼感指数で、今後６カ月の見通しを反映する期待指数が2013年3月以来の低水準となるなど、高いインフレ率が消費者心理を冷やしているとみられ、景気後退への懸念が強まっています。景気後退を招かずにインフレを鎮静化するという難題に対して、FRBは非常に難しいかじ取りを迫られることになるものと思われます。

図表1：米国のCPIとコアCPIの推移



図表2：米国の株価と長期金利の推移



出所）図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ　　https://www.nam.co.jp/

＜設定・運用＞
ニッセイアセットマネジメント株式会社
商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会